

業界の

声

● 協同組合 山梨県総合環境クリーンセンター

理事長 古屋 昶氏

業界の景況は？

業界の現状は、大変厳しいものがあります。廃棄物処理業界は、産業の景況に大きく左右されます。産業が活発であれば廃棄物も発生するためです。現在は長引く不況のため各企業とも厳しく、産業廃棄物量が減少しています。

また、山梨県には廃棄物の最終処分場がありません。このため、廃棄物処理業者は県外の最終処分場での処理を余儀なくされています。この場合、コスト面では県内での廃棄物処理に比べ『約2倍』の差があり、このことは廃棄物処理業者や企業にとって大きな出費要因の一つとなっています。

今後の展開は？

今、世の中では『リサイクル』が進んでいます。このことにより、廃棄物量は減少傾向にあります。しかし、これは地球環境にとって良いことであるため、この流れはさらに加速されると考えられます。今後、当業界に求められることは、『従来の考え方の枠を超えた考え方』であり、今までは考えられなかったことを考え、それに挑戦していくことです。そのためには、異業種との意見交換の場を積極的に活用することも必要です。いずれにしても、諦めぬ種は生えませんが、業種を問わず、様々なことに挑戦していくことが大事だと考えています。

以上のことから、今後の廃棄物処理業界は、適正処理を基本としながらリサイクル業への転換を行い、また、環境問題にも積極的に対応していくことが大事だと思います。ただ、多くの環境問題の解決のために1番必要なことは、個人・事業者とも『道徳（モラル）』ということではないでしょうか。環境の事を考えた上で、当たり前のこと、を当たり前にする。このことが、1番大事なことだと思います。



廃棄物から製造される「水砕溶融スラグ」を使ったコンクリートブロック